
「新しい技術・家庭 家庭分野」 年間指導計画作成資料

※題材ごとの配当時数，主な学習活動，評価規準などは，今後変更になる可能性があります。ご了承ください。

東京書籍

指導計画例① 自立と共生を目指して、衣食住の生活から始まり家庭・地域・社会へと視野を広げる例

この例は、自分から家族、家族から地域・社会へと段階的に視野を広げ、自分や家族のために進んでよりよい生活を工夫していくことをねらいとしている。第1学年から第2学年では、自分の生活を見つめ直し、生活の自立を目指して、内容Bを履修させる。その後、関連を図りながら内容Cを履修させる。第3学年では、家族や地域のことを考えて、よりよい生活を創造することを目指して、内容Aを履修させる。選択必修の生活の課題と実践は、第1学年末にエコクッキング、第3学年に余り布を用いた幼児の小物作りを設定して、問題解決的な学習や主体的・対話的で深い学びが繰り返し行えるようにしている。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	項目	A(1)		B(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴			B(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事					B(3) 日常食の調理と地域の食文化 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]										B(7), C(3) 生活の課題と実践														
	時数	2		4			7					18										4														
	学習内容	ガイダンス(※)		<ul style="list-style-type: none"> ・食事が果たす役割 ・健康に良い食習慣 ・栄養素の種類と働き ・中学生の栄養の特徴 			<ul style="list-style-type: none"> ・食品に含まれる栄養素 ・中学生に必要な栄養素 ・中学生の1日に必要な食品の種類と概量 ・中学生の1日分の献立の工夫 					<ul style="list-style-type: none"> ・食品の選択と購入 ・生鮮食品と加工食品 ・食品の保存と食中毒の防止 ・日常食の調理(野菜, 肉, 魚) ・地域の食文化 ・地域の食材を生かした和食の調理 ・持続可能な食生活を目指して 										<ul style="list-style-type: none"> 食生活, 消費・環境の課題と実践(例)エコクッキング 														
第2学年	項目	B(4) 衣服の選択と手入れ				B(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]				B(6) 住居の機能と安全な住まい方 C(2) 消費者の権利と責任 [環境]				C(1) 金銭の管理と購入			C(2) 消費者の権利と責任		A(1) 家族・家庭と地域																	
	時数	8				7				8				6			3		3																	
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の働き ・目的に応じた着用と個性を生かす服装 ・衣服の計画的な活用 ・衣服の選択 ・衣服の手入れ 				<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かにする工夫 ・製作の計画 ・布を用いた物の製作(リフォーム・リメイク) ・持続可能な衣生活を目指して 				<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの役割 ・家族の生活と住空間との関わり ・日本の住まいと住まい方 ・健康で快適な住まい ・安全・安心な住まい(家庭内事故, 災害への対策) ・持続可能な住生活を目指して 				<ul style="list-style-type: none"> ・消費者としての自覚 ・購入方法と支払い方法 ・計画的な金銭の管理 ・消費者トラブル ・商品の選択(意思決定のプロセス) 			<ul style="list-style-type: none"> ・消費者の権利と責任 ・省エネルギーと持続可能な社会 ・持続可能な消費生活を目指して 		<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭の機能 ・中学生としての自立 ・家庭生活と地域との関わり 																	
第3学年	項目	A(2) 幼児の生活と家族		A(4), B(7), C(3)		A(2) 幼児の生活と家族			A(3) 家族・家庭や地域との関わり		A, B, C																									
	時数	6		2		6			3		0.5																									
	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼い頃の振り返り ・幼児の体の発達 ・幼児の心の発達 ・幼児の生活習慣の習得 ・幼児の生活と遊び 		(例) 余り布で幼児の小物作り		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との関わり方の工夫(幼児との触れ合い体験) ・子どもにとっての家族 			<ul style="list-style-type: none"> ・家族の協力と家族関係 ・高齢者との関わり ・地域での協働を目指して 		学習を終えて																									
												指導時数		A	B食	B衣	B住	C	課題実践	計																
														20.5	29	15	8	9	6	87.5																

☆生活の課題と実践

(※)「家庭分野のガイダンス」では、自分の成長の振り返り、小学校家庭科の学習内容の振り返り、3学年間の学習内容を見通す内容、家族・家庭の基本的な機能と学習内容や見方・考え方とのつながりについて指導し、これからの学習に期待と意欲を持たせる。

■ 1年

* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度

* [小] …小学校家庭科での学習内容

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
1 ～ 2	家庭分野の ガイダンス	A(1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 自分の成長を振り返り、自分の成長や生活は家族やそれに関わる人々に支えられていることに気付く。 これまでの家庭生活や小学校家庭科の学習内容を振り返る。 中学校での学習内容に興味を持ち、3学年間の学習の見通しを持つ。 各内容と家族・家庭の基本的な機能が関連していることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校で家庭分野を学ぶ目的や意義を踏まえて、A～Cの3つの内容について具体的に説明する。 家庭生活を振り返るときには、プライバシーに十分配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて理解している。(知) 家族・家庭の基本的な機能について理解している。(知) 家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知) 	
3 ～ 6	1編1章 食事の役割と中学生の栄養の特徴	① どうして食事をするのだろう	B(1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 食事の役割についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で食事が果たしている役割を考えさせ、食事の役割をまとめさせる。 [小]食事の役割	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で食事が果たす役割について理解している。(知)
		② 私たちの食生活	B(1) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 食生活を点検し、課題を見付ける。 心身の健康に良い食習慣について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな視点から食生活を振り返らせ、自分の課題を考えさせる。 健康に良い食習慣を身に付け、日常生活で実践することの大切さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康に良い食習慣について理解している。(知) 自分の食習慣について問題を見いだして課題を設定している。(思) 自分の食習慣について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態)
		③ 栄養素ってなんだろう	B(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と働きについてまとめる。 体内での水の働きをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の体内での主な3つの働きと五大栄養素を関連させてまとめさせる。 中学生の平均体重を示し、水分の割合を具体的にイメージさせ、生命維持のために必要な成分であることに気付かせる。 [小]五大栄養素	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と働きについて理解している。(知)
		④ 中学生に必要な栄養	B(1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養の特徴について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事摂取基準から、中学生の時期の栄養の特徴を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養の特徴について理解している。(知)
7 ～ 13	1編2章 中学生に必要な栄養を満たす食事	B(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 食品成分表を使い、身近な食品の栄養的特徴を調べる。 食品の可食部100gと1回に食べやすい量に含まれるカルシウムの量の違いを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品に含まれる栄養素から食品名を当てるクイズを出題するなど、食品の栄養的特徴について関心を持たせる。 1回に食べやすい食品に含まれるカルシウムの量を知らせることにより、いろいろな食品を組み合わせる必要性があることを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な食品の栄養的特質について理解している。(知) 	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
	②何をどのくらい食べればよいか	B(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 身近な食品を栄養的な特徴により6つの食品群に分類する。 食品群別摂取量の目安と1日に必要な食品の種類と概量を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品群の分類については、栄養素の体内での主な3つの働きとの系統性を考慮して扱う。 実際に、献立に使われている食品を用意し、それらを食品群に分類したり、計量したりする活動を通して、1日に必要な食品の概量を実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の1日に必要な食品の種類と概量について理解している。(知) 	
	③バランスの良い献立作り	B(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での学習を振り返り、1食分の献立の例などを挙げさせるようにする。 主に栄養素を考えた食品の組み合わせを中心に献立を考えるよう指導する。 献立を考える際には、嗜好、費用、調理時間、季節などの点からも検討する必要があることを伝える。 <p>[小] 1食分の献立</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1日分の献立作成の方法について理解している。(知) 1日分の献立について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 1日分の献立について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
14 ～ 17	1編3章 調理のための食品の選択と購入	①食品の選択と購入	B(3) ア	<ul style="list-style-type: none"> 食品を選択する観点について知る。 食品の表示について調べ、まとめる。 用途に応じた食品の選択について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習で使用する生鮮食品や加工食品の表示調べを行い、主体的な学習となるように配慮する。 調理実習で使用する食品を取り上げ、用途に応じて選択するために必要な情報を収集・整理し、適切な選択をするための工夫を考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。(知) 食品の選択について、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 食品の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	②生鮮食品の特徴	B(3) ア	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品の特徴と表示の内容、品質の見分け方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品は、調理実習で用いる肉や魚、野菜などを扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と関連付け、用途に応じた生鮮食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。(知) 	
	③加工食品の特徴	B(3) ア	<ul style="list-style-type: none"> 加工食品の特徴と表示の内容、品質の見分け方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 加工食品は、生徒に身近なものを扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と関連付け、用途に応じた加工食品の選択について理解しているとともに、適切にできる。(知) 	
	④食品の保存と食中毒の防止	B(3) ア	<ul style="list-style-type: none"> 食品のさまざまな保存方法を知る。 食中毒の防止について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 保存方法と食品の腐敗や食中毒の原因を関連付けて扱い、適切な保存と計画的な購入の必要性に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。(知) 	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
18 ~ 31	1 編 4 章 日常食の調理と地域の食文化	①日常食の調理	B(3) アイ <ul style="list-style-type: none"> ・献立を決め、食品の調理上の性質を生かした調理の要点をまとめる。 ・調理に必要な手順や時間を考え、調理計画を工夫する。 ・調理実習の準備をする。 ・安全と衛生に気を付けて調理をする。 ・試食をする。 ・後かたづけをする。 ・調理実習の反省をし、評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜や肉、魚を用いた献立を考え、調理上の性質を生かした調理方法を工夫するように助言する。 ・調理の手順について、安全で能率的な方法を考えさせる。 ・調理の用途に応じた食品の選択を工夫させる。 ・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作を習得できるようにする。 ・環境へ配慮した調理や後かたづけができるように助言する。 ・反省を、次回に生かすようにする。 [小]ゆでたり、いためたりする調理 [小]ご飯とみそ汁の調理	<ul style="list-style-type: none"> ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解しているとともに、適切にできる。(知) ・材料に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。(知) ・日常の1食分の調理について問題を見いだして課題を設定し、実践に向けた計画を考え、工夫している。(思) ・日常の1食分の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
		②野菜・いもの調理	B(3) アイ <ul style="list-style-type: none"> ・野菜・いもの調理上の性質を知る。 ・安全と衛生に気を付けて、野菜・いもの調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜・いもの性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。 ・調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜・いものに適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。(知) ・野菜・いもの調理について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・野菜・いもの調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
		③肉の調理	B(3) アイ <ul style="list-style-type: none"> ・肉の調理上の性質を知る。 ・安全と衛生に気を付けて、肉の調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肉の性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。 ・調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肉に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。(知) ・肉の調理について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・肉の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	④魚の調理	B(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 魚の調理上の性質を知る。 安全と衛生に気を付けて、魚の調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 魚の性質や調理方法を理解できない場合は、図や写真などを活用して理解させる。 調理実習が手順よく進められない場合には、次の作業を具体的に指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 魚に適した加熱調理の仕方について理解しているとともに、基礎的な日常食の調理が適切にできる。(知) 魚の調理について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 魚の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	⑤日本の食文化と和食の調理	B(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食材や季節の食材について調べる。 地域の食文化について調べる。 地域の食材を用いた和食の調理をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を図り、地域の食材を生かした和食の調理実習につながるように配慮する。 地域の実態に応じて、地域の伝統的な行事食や郷土料理などを調理題材として扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の食文化について理解しているとともに、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。(知) 和食の調理について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 和食の調理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	⑥持続可能な食生活を目指して	B(1)－ (3), C(2)	<ul style="list-style-type: none"> 食生活を取り巻く問題を把握し、持続可能な食生活のためにできることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 食生活を取り巻くさまざまな問題を、いろいろな角度から考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な食生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) よりよい食生活を目指して、食事の役割や栄養、献立、調理などについて、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
32 ～ 35	生活の課題と実践	B(7), C(3)	<ul style="list-style-type: none"> 学習してきたことを生かし、改善する点や課題はないか、自分や家族の食生活を見直す。 課題を解決したり、より豊かな生活にしたりするための工夫を考え、計画を立て実践する。 (例) エコクッキングにチャレンジ 立てた計画をグループで発表し合い、計画を見直す。 各自で実践したことをまとめ、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の内容を関連させた課題を設定できるようにする。 目的を明確に持ち、個性や工夫を生かせるようにする。 計画、実践、評価、改善の一連の学習活動であることを重視させる。 各自の課題の解決を目指した問題解決的な学習を進め、主体的な活動となるように配慮する。 学習した知識と技能を活用し、家庭で実践する意義にも気付かせる。 実践して分かったこと、これからの生活で更に工夫して生かしたいことまで考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の食生活や消費生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 自分や家族の食生活や消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)

■ 2年

* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度
 * [小] …小学校家庭科での学習内容

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
1 〜 8	2編1章 衣服の選択と手入れ				
	① どうして衣服を着るのだろう	B(4)ア	・衣服の目的に応じた着方や個性を生かした着方を考えながら、衣服の働きをまとめる。	・目的に応じて衣服の着方が違う点に着目させ、衣服の社会生活上の働きを考えさせる。 [小]衣服の保健衛生上や生活活動上の働き	・衣服と社会生活との関わりについて理解している。(知) ・目的に応じた着用について理解している。(知)
	② 私らしさとT.P.O.～着方の工夫～	B(4)ア	・個性を生かした服装について知り、自分らしい着方を考える。	・色や形などの調和や自分らしさを考えた着方を工夫させる。	・個性を生かす着用について理解している。(知) ・自分らしい着方について考え、工夫している。(思) ・目的に応じた着用を踏まえた自分らしい着方について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	③ 日本の衣文化	B(4)ア	・日本の伝統的な衣文化について知り、和服と洋服の構成や着方の違いに気付く。	・和服の構成やたたみ方から、和服の特徴や文化について理解させる。	・衣服と社会生活との関わり(和服)について理解している。(知) ・衣文化の継承について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態)
	④ 衣服計画と必要な衣服の選択	B(4)アイ	・衣服調べをして、必要な衣服の数量を把握し、過不足や処分の仕方を考える。 ・手持ちの衣服の活用を考えながら、表示や縫製の良否、手入れの方法や価格など、既製服の適切な選択方法を知る。	・衣服の入手については、購入するだけでなく、環境に配慮する視点から、譲り受けたり、リフォームしたりする方法にも触れる。 ・衣服を自分で管理する大切さを知らせ、既製服の適切な選択方法を理解させる。	・衣服の適切な選択について理解している。(知) ・衣服の計画的な活用の必要性について理解している。(知) ・衣服の選択について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・衣服の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
⑤ 衣服の手入れ	B(4)アイ	・衣服の洗濯や補修などの手入れの必要性を理解し、衣服の材料や状態に応じた手入れの方法を知る。	・衣服を快適に着用するために手入れが必要であることに気付かせ、手入れの実習をさせる。 ・洗濯については、手洗いを基礎とし、洗濯機を適切に使用できるようにする。 [小]手洗いによる洗濯	・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。(知) ・材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方(洗濯、収納、補修、アイロンなど)について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方(洗濯、収納、補修、アイロンなど)について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
9 ～ 15	2編2章 生活を豊かにするために	①作って楽しい布作品 B(5) アイ, C(2)	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で、あるといいなと思うものを考えさせる。 製作に必要な材料や用具、製作手順や時間などの見通しを持つ。 身の回りの生活を快適にしたり、資源や環境に配慮したりするなど、自分や家族、地域の人々の生活を豊かにする具体的な物を製作する。 	<ul style="list-style-type: none"> 補修の技能を生かした製作品を考えさせる。 計画内容を確認し、安全で能率よく実践できるよう、今後の学習の見通しを持たせる。 手縫いやミシン縫い、アイロンなど基礎的・基本的な知識や技能を活用させる。 完成後の製作品や、それを活用している姿を想像しながら製作に臨ませると、学習意欲が高まる。 製作を通して、自分や家族の生活を豊かにすることの大切さを実感させる。 [小]布を用いた製作	<ul style="list-style-type: none"> 製作する物に適した材料や縫い方について理解している。(知) 用具を安全に取り扱い、製作が適切にできる。(知) 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするための布を用いた物の製作について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	②持続可能な衣生活を目指して B(4), (5), C(2)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な衣生活を目指して、衣服計画を立て、衣服の活用や管理の方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣生活の自立に向けて、自分にできることを具体的に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な衣生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) よりよい衣生活を目指して、衣服の選択と手入れや生活を豊かにするための布を用いた製作について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
16 ～ 23	3編1章 住まいの役割と安全な住まい方	①もしも住まいがなかったら B(6) ア	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの役割や基本的な機能について考える。 自分や家族の生活と住まい方との関わりを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 住空間と生活行為との関係を理解させ、家族がどのような生活を重視するかで住まい方が異なることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族の生活と住空間との関わりについて理解している。(知) 住居の基本的な機能について理解している。(知)
	②住まいと気候風土の関わり B(6) ア	<ul style="list-style-type: none"> 和式の住まい方が現代にも受け継がれていることを理解する。 日本では各地の気候に合わせた住まいの特徴があることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 住まいや住まい方は気候風土や文化によって異なり、日本国内でも違いがあることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 和式の住まい方や日本各地の住まいの特徴などと住空間の関わりについて理解している。(知) 住文化の継承について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態) 	
	③健康で快適な室内環境 B(6) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 健康で快適な室内環境の条件を知り、改善方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内の空気の汚染が及ぼす影響を取り上げ、室内環境を整える必要性に気付かせ、改善方法を考えさせる。 [小]整理・整頓や清掃の仕方、暑さ・寒さ、通風・換気、採光、音	<ul style="list-style-type: none"> 室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について理解している。(知) 室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。(思) 室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(態) 	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	④家族の住まいを安全・安心に	B(6) アイ	・家庭内事故とその原因について知り、安全に住むために改善できることを考える。	・家庭内事故の具体例から、安全管理の方法を考えさせる。	・家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。(知) ・家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。(思) ・家庭内の事故の予防や対策など家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	⑤災害への対策	B(6) アイ	・住まいの災害対策について知り、災害に備えてできることを考える。	・災害の特徴を知らせ、住まいの災害対策を具体的に考えさせる。	・自然災害への備え方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。(知) ・自然災害への備え方など家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。(思) ・自然災害への備え方など家族の安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	⑥持続可能な住生活を目指して	B(6), C(2)	・持続可能な住生活のために、課題を見つけ、改善方法を考える。	・具体例を挙げて、持続可能に住まうためにできることを考えさせる。	・持続可能な住生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) ・よりよい住生活を目指して、住居の機能と安全な住まい方について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
24 ～ 29	4編1章 私たちの消費生活 ①消費者としての自覚	C(1) ア	・自分や家族の消費生活を振り返り、適切な消費行動について考える。 ・契約の意味について理解する。	・自分の消費に使える金銭には限りがあることや優先順位を考えた計画的な支出が必要であることを気付かせる。 [小]物や金銭の大切さ、計画的な使い方、買い物の仕組み	・物資・サービスについて理解している。(知) ・売買契約の仕組みについて理解している。(知)
	②購入方法と支払い方法	C(1) ア	・具体的な買い物の場面を取り上げ、購入方法や支払い方法について考える。	・購入方法や支払い方法について理解させる。 [小]買い物の仕組み	・購入方法や支払い方法の特徴を理解している。(知)
	③バランス良く計画的な金銭の管理	C(1) ア	・計画的な金銭管理の必要性を理解する。 ・三者間契約の仕組みについて理解する。	・バランスの良い金銭管理のために、自分や家族の中での優先順位について考えさせる。 ・社会(公民)とも関連させながら、三者間契約の仕組みや特徴について理解させる。 [小]物や金銭の計画的な使い方	・計画的な金銭管理の必要性について理解している。(知) ・自分に合った金銭管理の方法を考え、工夫している。(思) ・計画的な金銭管理について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点	
	④消費者トラブルとその対策	C(1)ア	<ul style="list-style-type: none"> 消費者に関わるトラブルなどの実際の例を取り上げ、その解決方法について考える。 消費者トラブルの解決方法をグループで話し合い、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生に関わりの深いトラブル事例を取り上げて、調べさせるなど、生徒が主体的に学習できるように工夫する。 消費生活センターやクーリング・オフ制度などについて理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者トラブルの事例とその対応について理解している。(知) 消費者トラブルを未然に防いだり解決したりするための方法を考え、工夫している。(思) 消費者トラブルの対応について、課題の解決に主体的に取り組み、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
	⑤何を考えて決めますか～意思決定のプロセス～	C(1)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 商品（物資やサービス）を適切に選択、購入する方法について考える。 商品の選択、購入をするときに必要な情報を収集し、整理する。 商品の活用方法についても考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定のプロセスを用いて商品購入についてシミュレーションさせる。 本当に必要かどうか判断することの大切さに気付かせる。 商品の表示やマークについて知らせる。 多くの情報の中から適切な情報を収集・整理し、物資やサービスの適切な選択ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品（物資・サービス）の選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。(知) 商品（物資・サービス）の選択について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 商品（物資・サービス）の選択について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
30 ～ 32	4編2章 責任ある消費者になるために	①消費者としてできること～権利と責任～	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 実際の消費生活と結び付け、消費者の権利や責任について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の権利と責任については、中学生の消費行動や具体的な事例と関わらせて考えさせる。 消費者基本法の趣旨を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の基本的な権利と責任について理解している。(知) 自立した消費者としての消費行動について考え、工夫している。(思) 消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	②省エネルギーと持続可能な社会	C(2)アイ	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族のエネルギー消費が環境に与える影響について知らせ、エネルギー消費を減らす方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭でできる省エネルギーについて具体的に考えさせる。 自分や家族の生活の仕方が身近な環境に与える影響について考えやすくするために、具体的な事例などを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。(知) 自立した消費者としての環境に配慮した生活について考え、工夫している。(思) 自立した消費者としての環境に配慮した生活について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	
	③持続可能な消費生活を目指して	C(1),(2)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会を目指して、自分や家族ができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会を目指して、自分の生活の在り方を考え、工夫し実践することの大切さを理解させる。 環境に配慮した消費生活が持続可能な社会を形成する基盤であることに気付かせる。 これからの生活を展望して、1人1人が環境に配慮した生活を送る必要性に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な消費生活を目指して、課題とその解決方法について考え、工夫している。(思) 自立した消費者としての社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。(態) 	

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
33 ～ 35	5 編 1章 家族・家庭と地域	①私たちの生活と家族・家庭の機能	A(1) ア ・家庭や家族の基本的な機能について考える。 ・家庭や家族の大切さについて考える。 ・自分の成長を振り返る。	・家庭や家族の機能として、子どもを育てる機能や心の安らぎなどの精神的な機能があることを取り上げ、それらは衣食住などの生活の営みによって支えられていることに気付かせる。	・家族や家庭生活との関わりについて理解している。(知) ・家族・家庭の基本的な機能について理解している。(知) ・家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知) ・自分や家族がになう家族・家庭の基本的な機能を考え、生活を工夫している。(思)
	②中学生としての自立	A(1) ア ・自分と家族との生活を振り返り、中学生としての自立について考える。	・中学生になった自分と家族の生活を振り返り、家庭における自分の役割に気付かせる。その際、小学校での学習内容や、家庭分野のガイダンスのページを活用するなど、家族や地域の一員としてできることを具体的に考えられるように工夫する。 [小]家庭の仕事	・中学生になった自分と家族の生活を振り返り、家庭における自分の役割に気付かせる。その際、小学校での学習内容や、家庭分野のガイダンスのページを活用するなど、家族や地域の一員としてできることを具体的に考えられるように工夫する。 [小]家庭の仕事	・自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて理解している。(知) ・家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知) ・自立に向けて中学生の自分にできることを考え、工夫している。(思)
	③家庭生活と地域との関わり	A(1) ア ・地域の活動などを調べ、自分や家族がどのように関わっているか考える。	・家庭生活は、地域の人々とのつながりの中で成り立っており、相互の関わりによって生活をよりよくできることに気付かせる。 ・日常生活から、具体的な事例を挙げさせ、地域の人々との関わりを考えさせる。	・家庭生活は、地域の人々とのつながりの中で成り立っており、相互の関わりによって生活をよりよくできることに気付かせる。 ・日常生活から、具体的な事例を挙げさせ、地域の人々との関わりを考えさせる。	・地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。(知) ・地域の幼児や高齢者など、自分と異なる立場の存在に気付いている。(知)

■ 3年

* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度
 * [小] …小学校家庭科での学習内容

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
1 と 6	5編2章 ①幼い頃の振り返り	A(2) ア	・自分の幼児期を振り返り、幼い頃の夢、エピソードなどをまとめる。	・幼い頃に好きだったものなどをまとめさせたり、インタビューや写真、ビデオなどを手がかりにしたりして振り返ることができるようにする。 ・生徒のプライバシーには、十分に配慮する。 [小]自分の成長と家族	・幼い頃を振り返り、周囲の人との関わりの大切さについて理解している。(知)
	②幼児の体の発達	A(2) ア	・幼児の体の発達の特徴について考える。	・身体の発達や運動機能、生理的機能の発達の概要とそれを支えている生活の重要性について分かるようにする。 ・体や運動機能の発達には、一般的な方向や順序があるとともに個人差があることに気付かせる。	・幼児の体の発達の特徴について理解している。(知)
	③幼児の心の発達	A(2) ア	・幼児の心の発達の特徴について考える。	・情緒、社会性、言葉の発達の概要とそれを支えている生活の重要性について分かるようにする。 ・心の発達には、一般的な方向や順序があるとともに個人差があることに気付かせる。 ・心の発達には家族や身近な人への信頼関係を形成することが大切であることに気付くようにする。	・幼児の心の発達の特徴について理解している。(知)
	④幼児の1日の生活	A(2) ア	・幼児の1日の生活を自分たちの生活と比較することで、幼児の特徴を理解する。	・幼児と中学生の1日の生活を比較させて、幼児の特徴に気付かせる。	・幼児の発達と生活の特徴について理解している。(知)
	⑤支えられて身に付ける生活習慣	A(2) ア	・幼児の生活習慣がどのように身に付いていくのか考える。 ・生活習慣の習得を支える家族の役割を考える。	・食事、睡眠、排せつ、着脱衣、清潔などの基本的な生活習慣については、生活の自立を目指し、幼児の心身の発達に応じて身に付けさせる必要があることを理解させる。 ・生活習慣の習得については、幼児の心身の発達に応じて、周囲の大人が適切に関わり、身に付けさせる必要があることに気付くようにする。	・幼児の発達と生活の特徴について理解している。(知) ・幼児の生活習慣の習得を支える家族の役割について理解している。(知)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	⑥幼児の生活と遊び	A(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の生活やいろいろな遊びを観察し、遊びで育つ力について考える。 ・遊び道具や遊び場所について調べ、遊び道具の役割や遊ぶ環境について考える。 ・遊び道具を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての遊びは、生活そのものであり、身体の発育や運動機能、言語、情緒、社会性などの発達を促していることが分かるようにする。 ・幼児期に適切で十分な遊びを経験することが子どもの成長にとって重要であることに気付かせる。 ・発達段階や子どもによって、遊びの種類や遊び方、友達との関わり方などが異なる特徴を持っていることに気付かせる。 ・遊び道具は、子どもの成長やコミュニケーションを促す上で大切であることに気付かせる。 ・遊び道具の製作の目的は、幼児の理解を深めることが目的であることを押さえる。 ・幼児の心身の発達を踏まえ、幼児が興味を持って楽しく遊べる遊び道具になるよう工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての遊びの意義について理解している。(知) ・幼児との関わり方について理解している。(知) ・幼児の遊びの意義を踏まえ、幼児との関わり方を工夫している。(思)
7 ~ 8	生活の課題と実践	A(4), B(7), C(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習してきたことを生かし、改善する点や課題はないか自分や家族、幼児の衣生活を見直す。 ・課題を解決したり、より豊かな生活にしたりするための工夫を考え、計画を立て実践する。 (例) 余り布で幼児の小物作り ・立てた計画をグループで発表し合い、計画を見直す。 ・各自で実践したことをまとめ、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の内容を関連させた課題を設定できるようにする。 ・目的を明確に持ち、個性や工夫を生かせるようにする。 ・計画、実践、評価、改善の一連の学習活動であることを重視させる。 ・各自の課題の解決を目指した問題解決的な学習を進め、主体的な活動となるように配慮する。 ・学習した知識と技能を活用し、家庭で実践する意義にも気付かせる。 ・実践して分かったこと、これからの生活でさらに工夫して生かしたいことまで考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族、幼児の衣生活や消費生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・自分や家族、幼児の衣生活や消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
9 ~ 14	5編2章 ⑦幼児との関わり方の工夫 幼児の生活と家族	A(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との触れ合いについて、自分の課題を設定する。 ・幼児に合った接し方や遊びを工夫し触れ合う方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分なりの課題を持ち、幼児の発達の状況に応じた関わり方を工夫し、実践できるようにする。 ・幼児と触れ合うことの良さに気付くなど、幼児との関わりが積極的に行えるようにする。 ・できるだけ直接体験ができるよう工夫する。しかし、幼児と触れ合う活動が困難な場合は、視聴覚教材やロールプレイングなどを活用し、関わり方の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児との関わり方について理解している。(知) ・幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、計画している。(思) ・幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組む、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	⑧幼児との関わりを生活に生かす	A(2)アイ	・幼児との触れ合い活動を通して、学んだことを発表する。	・体験したことを振り返ったり、まとめたり、話し合ったりするなど、幼児との関わりが深まるようにする。	・幼児との関わり方での課題解決に向けた一連の活動について実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。(思) ・幼児との関わり方での課題解決に向けた一連の活動について、振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	⑨子どもにとっての家族	A(2)アイ	・子どもが育つ環境としての家族の役割を考える。	・家庭生活の中で、親やそれに代わる人が愛情を持って接し、幼児との基本的な信頼関係を形成することが大切であることに気付かせる。	・子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。(知) ・家族の立場から幼児との関わり方について考え、工夫している。(思) ・家族の立場からの幼児との関わり方について、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
15 ～ 17	5編3章 これからの家族と地域	①家族との関わり	A(3)アイ ・家族との関わりや、これからの自分の家庭生活について考える。 ・家族関係をよりよくする方法を考える。	・家族の互いの立場や役割を理解し、協力して家族関係をよりよくすることが大切であることに気付かせる。 ・家族関係をよりよくするためにどのような方法があるか、家族の一員としてどのようなことができるのか、具体的に考えさせ、これからの生活で実践できるようにさせる。 ・生徒に関わりの深い課題を取り上げ、ドラマ、物語、ロールプレイングなどを通して、具体的に考えさせる。 ・生徒のプライバシーには、十分に配慮する。	・家族の互いの立場や役割について理解している。(知) ・家族と協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解している。(知) ・家族関係をよりよくする方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・家族関係をよりよくする方法について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
	②家族や地域の高齢者との関わり	A(3)アイ	・高齢者の体の特徴を理解する。 ・高齢者の体の特徴を踏まえ、関わり方を考える。	・高齢者の体の特徴を挙げさせることで、どのように関わるのが適切か、考えさせる。 ・高齢者との関わり方を体験的な活動を通して考えさせる。	・高齢者など地域の人々と協働する必要があることについて理解している。(知) ・介護など高齢者との関わり方について理解している。(知) ・高齢者との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) ・高齢者との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
	③地域での協働を目指して	A(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることに気付く。 地域のために自分ができることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での自分の役割はどのようなものか、考えさせる。 地域のためにできることを、ドラマ、物語、ロールプレイングなどを通して、具体的に考えさせる。 生徒のプライバシーには、十分に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。(知) 地域の人々と協働する必要があることについて理解している。(知) 地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。(思) 地域の人々と関わり、協働する方法について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。(態)
17 ? 17.5	学習を終えて	A, B, C	<ul style="list-style-type: none"> 3学年間の学習を振り返り、多くのことができるようになったことに気付く。 できるようになったことから、これからの生活で生かしていきたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容ごとに振り返らせ、多くのことができるようになったことに気付かせる。 学習がどのように生活に生かすことができるか、未来の自分への手紙などで考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭分野で学習したことを今後の生活に生かそうとしている。(態)